

第2部 スチューデントコンサルタント認定者に対するアンケート結果

I スチューデントコンサルタントに関すること

問1 スチューデントコンサルタント受験の動機

研修の一環で受験した者や、先輩や上司の勧めで受験した者が多い。

当法人が実施しているスチューデントコンサルタント認定試験に合格した認定者は、平成27年度現在で713名を数え、各大学や短大で学生支援の中核となって活躍している。受験の動機は「研修の一環として受験することが適当であると思った」と回答した者が44.7%と最も多く、次いで「先輩や上司に勧められた」が42.6%になっている。

「学生支援の仕事を行う上で認定者の資格があった方がよいと思った」は38.3%、「学生支援担当者として適任であるという第三者の評価を得たかった」が34.0%であり、仕事の上で資格があることが適当であると考えて受験していることも動機として大きい。

受験の動機（複数回答）

項目（選択肢）	回答（%）
① 先輩や上司に勧められた。	20(42.6)
② 同僚や先輩、上司に認定者がいるので、自分も認定者の資格が欲しかった。	2(4.3)
③ 学生支援担当者として適任であるという第三者の評価を得たかった。	16(34.0)
④ 学生支援の仕事を行う上で認定者の資格があった方がよいと思った。	18(38.3)
⑤ 認定者になることで、学生支援の仕事ができる（学生支援の部署に異動できるなど）と思った。	6(12.8)
⑥ 研修の一環として受験することが適当であると思った。	21(44.7)
⑦ 学生文化創造の基礎研修講座や研究会を受講し、受験したいと思った。	1(2.1)
⑧ どんな試験か興味があったので受験した。	2(4.3)
小計（複数回答数）	86
（スチューデントコンサルタントの回答数）	47

（注）比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

問2 スチューデントコンサルタントに認定された後の状況

学生支援の仕事を継続している者は6割。

スチューデントコンサルタントに認定された後、それぞれの大学・短大でどのような業務を担当しているのであろうか。「学生支援の仕事を継続して行っている」者は61.7%で、「学生支援以外の他の部署に異動した」者も36.2%いる。「他の部署に異動したが、学生支援の仕事をしたいと希望している」者は17.0%である。

また、認定者になったことにより「他の部署から学生支援の部署に異動した」者は8.5%である。他の部署に異動した者も3割以上いるが、大学や短大においては学生支援の問題は全学的な取り組みが必要であり、担当者の立場を離れたとしても、認定者としての知識や能力が大学運営に果たす役割は大きいと考えられた結果ともいえよう。

認定後の状況(複数回答)

項目(選択肢)	回答(%)
① 学生支援の仕事を継続して行っている。	29(61.7)
② 他の部署から学生支援の部署に異動した。	4(8.5)
③ 認定者になったことで、学生支援以外の部署への異動が難しくなった。	1(2.1)
④ 学生支援以外の他の部署に異動した。	17(36.2)
⑤ 他の部署に異動したが、学生支援の仕事をしたいと希望している。	8(17.0)
⑥ 認定者になったが、引き続き学生支援とは別の仕事をしている。	2(4.3)
小計(複数回答数)	61
(スチューデントコンサルタントの回答数)	47

(注) 比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

問3 認定後の取扱い

人事上等の配慮はないが、学内でのスチューデントコンサルタントに対する理解、認識が高まった。

認定者になったからといって、昇給や昇格等の人事上の配慮はされておらず「特に変化はない」と回答した者は70.2%である。しかし、「学内でスチューデントコンサルタントに対する理解、認識が高まった」と回答した者が27.7%いた。

それぞれの大学、短大で学生支援で活躍している認定者に対して、人事上の評価等が期待される場所である。

認定後の取扱い(複数回答)

項目(選択肢)	回答(%)
① 認定者になったことにより昇給(手当が増えた)した。	0(0.0)
② 認定者になったことにより昇格した。	2(4.3)
③ 昇給や昇格はないが、学内(上司や先輩、同僚など)の評価が上がったと思う。	6(12.8)
④ 責任のある仕事を任されるようになった。	3(6.4)
⑤ 学内でスチューデントコンサルタントに対する理解、認識が高まった。	13(27.7)
⑥ 特に変化はない。	33(70.2)
小計(複数回答数)	57
(スチューデントコンサルタントの回答数)	47

(注) 比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

問4 認定試験等に関する評価

学生支援にとってスチューデントコンサルタントの認定試験制度は意義がある。

スチューデントコンサルタントの認定試験制度については、「大学・短期大学の職員として、学生支援の重要性を理解するうえで有意義であった」と回答した者が68.1%であったことは、この制度について認定者が一定の評価をしていると考えてよいであろう。

また、「認定者になったが、まだまだ専門性を高めないといけないと思う」と回答した者が55.3%おり、さらに専門性を高めたいと心がけている者が多いことは大変心強い。こうした認定者の期待に応える意味でも、今後の研修の充実が課題といえよう。

認定試験等に関する評価（複数回答）

項目（選択肢）	回答（％）
① 学生支援を担当するので認定者の資格があつてよかった。	8 (17.0)
② 学生支援の仕事をする上で必要だと思った。	12 (25.5)
③ 大学・短期大学の職員として、学生支援の重要性を理解するうえで有意義であった。	32 (68.1)
④ 認定者になったが、まだまだ専門性を高めないといけないと思う。	26 (55.3)
⑤ 認定者になっても変化はなかったので、必要なかった。	2 (4.3)
小計（複数回答数）	80
（スチューデントコンサルタントの回答数）	47

（注）比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。

問5 認定者として希望すること

もっとPR・周知が必要。

認定者の希望として、「大学当局に学生支援において認定者の果たす役割が重要であることをPR・周知して欲しい」と回答した者が最も多く57.4%になっている。副学長等のアンケートにおいて、スチューデントコンサルタントの認定試験制度を「知らない」と回答した大学、短大は5割であることを考えると、この制度についての理解を広める活動がもっと必要である。

また、「認定者の資格を国家資格のようなもっと社会的価値のある資格にして欲しい」という意見も55.3%と高い。学生支援についても高度専門職の必要性が指摘されているが、さらに充実を図り多くの大学関係者に評価される制度にしていくことが期待されているといえよう。

認定者として希望すること（複数回答）

項目（選択肢）	回答（％）
① 認定者の資格を国家資格のようなもっと社会的価値のある資格にして欲しい。	26 (55.3)
② もっと上級の資格を設けて欲しい。	10 (21.3)
③ 大学当局に学生支援において認定者の果たす役割が重要であることをPR・周知して欲しい。	27 (57.4)
④ 認定者の研修の機会をもっと増やして欲しい。	12 (25.5)
⑤ 認定者同士が連携できる仕組みを作って欲しい。	6 (12.8)
⑥ 現状のままでよい。	0 (0.0)
小計（複数回答数）	81
（スチューデントコンサルタントの回答数）	47

（注）比率は、スチューデントコンサルタントの回答数に対する比率を示す。